

1. 評価結果概要表

平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600189
法人名	社会福祉法人慧誠会
事業所名	グループホームベルエポック
所在地	〒089-1182 帯広市川西町西1線47-6 (電話) 0155-59-2350

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】 (20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 11年 2月 23日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14人	常勤	8人, 非常勤 6人, 常勤換算6.12人

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ鋼	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円			
その他の経費(月額)				
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000円		

(4) 利用者の概要 (11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		5名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 85.8歳	最低	76歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院・大江病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人慧誠会・帯広けいせい苑は、介護保険制度導入以前より地域高齢者福祉の充実を目指し「ベルエポック」を開設している。事業所名はフランス語の「古きよき時代」という語源を持ち、利用者が生きてこられたこれまでの生活の継続性を大切にケアに努められている。同法人の各施設が多数集積しており相互にバックアップの関係を保ち、ディサービス、障がい者施設の行事訪問や特殊浴場の利用など多機能を十分活かした柔軟な支援を行なっている。管理者は、理念をかみ締め、利用者の潜在的な意向を汲みとる重要性を職員と共有しながら共に生活をしている様子が窺える。多機能ホームと併設されていることやゆったりとした広い居室であることも特徴的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回、市との連携について、市職員の事業所見学や実習を受け入たり、介護保険課に意見やサービスに関する情報交換を行なっている。また、敬老会の行事などに参加を頂いている。同業者との交流を通じた向上について、市内のお互いの事業所の夏祭りに参加したり、近隣の高齢者下宿の方々と遠足に出かけるなどして交流を図っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組み、職員会議でまとめている。自己評価で明らかにされた運営やサービス等の課題について、項目ごとの方策も示され、積極的に取り組む姿勢が窺える。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、利用者へのサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や利用者が生活しやすい環境作りを相談したりし、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今後は、定期開催を重ねつつ、認知症についてや高齢者福祉についての勉強会を行ないながら、様々な意見討議が推進できるよう考えを示している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理など、家族等に月1回、定期的及び個々にあわせた報告をしている。家族とのより強固な信頼関係や交流促進についての必要性を認識している。運営やサービスについて詳細な情報提供をしながら、意向や意見の聴取に取り組み運営に反映されることに期待したい。 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 民家が周辺にない状況であり、日常の散歩などでの交流については難しい面はあるが、時期や状況に応じて、畑おこし作業等の協力を得るなど自然なおつき合いを行なっている。隣接の同法人事業所に居る利用者や通所者とは、日々の事業所訪問や行事参加などを通じて、ふれ合う場面や交流が実現し、利用者の楽しみに繋がるよう協力体制を整えている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基に、住み慣れた地域で「安心した暮らし」を地域とのかかわりのなかで暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすい玄関ホールに掲示しており、常に意識できるようにしている。管理者と職員は、ケア会議等で理念を共有し、ケアの視点と考えを実践に向けて日々取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の施設利用者との交流をはじめ、近所の障害者施設の行事への参加などを行なっている。町内会には加入していないが、地元住民とお互いの行事などの情報交換を行ない、畑おこしの協力を得るなど、自然なおつき合いが深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自己評価は全員で取り組み、外部評価で表出された課題については職員間で話し合い改善に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者へのサービスの実際、評価への取り組み状況等についての報告や利用者が生活しやすい環境作りの相談を行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の事業所見学や実習を受け入れたり、市の担当者とはケアサービスに関しての情報交換や意見を仰ぐなど連携を図っている。事業所の敬老会に担当者の出席を頂くなどサービスにふれてもらう機会を確保しながら質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理について、家族等に月1回、定期的及び個々に合わせた報告を行なっている。また、通院時は家族の同席を頂いたり、家族が同席できない場合はその都度報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付係りを配置していると同時に、第三者委員を設置し、利用者、家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる体制を整備し、それらを運営に反映させている。	○	職員の異動により発生する、家族の不安感や心情にも配慮をしながら情報交換を丁寧に行なっていきたい考えを示している。サービスや運営に関し率直な意見を出してもらえよう交流も深めながら取り組みを進められることに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者へ事前に説明し、新旧職員の一週間の引き継ぎ期間を設けている。利用者と一緒に生活の中で、安心して新しい職員と馴染めるよう、緩やかな新旧職員の交代に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、育成目的のため人事考課を取り入れ、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたてている。法人外の研修を受ける機会の確保や、法人内部の併施設設との合同研修などを企画し、実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム間でお互いの夏祭りに参加したり、近隣の高齢者下宿と一緒にバス遠足に出かけるなど交流を図っている。また、管理者同士の日常的な意見交換を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを行なっている。	○	管理者のみならず、職員同士の相互訪問交流や研修を実施し、他法人を知ることで得られる気づきを事業所全体のものにしなが、事業所のサービスの質を向上させていく取り組みに結実できるよう期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に事業所をゆっくりと見学して頂いている。また、家庭訪問を行ない利用者、家族の希望や意向、課題について相談しながら、利用者が安心して利用できる環境作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が「どのように生活したいのか」を念頭に置き、一緒に過ごしながら野菜畑の作業や食事の準備、後片付けなどを共にし、利用者同士支え合ったり、職員が利用者から生活の技を学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃から一人ひとりとの会話を多く持ち、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、職員会議等で話し合い利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や状態変化時にアセスメントを行い、利用者の「できる」部分を維持できるように、より個別対応に重点を置きながら、日々の生活の中で必要な関係者と話し合い、助言やアイデアを取り入れ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者個々の状況により見直し期間が設定されている。カンファレンスで、問題点について対策を協議し、本人、家族の意見、希望を取り入れ、臨機応変な対応で見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	豊かな生活支援に結びつけるため、通所施設へ訪問して楽しむ機会を持つなど、法人の多機能的な要素を取り入れた支援を行なっている。利用者の体調不良時の通院等、家族が対応困難などときには職員が柔軟かつ適切なサービス提供に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を基本とし、通院支援を継続している。家族の同行を原則にしているが、立ち会えない場合は職員が対応し家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末の看取りの指針書に、利用者の今後予想される重度化等の対応について、職員間で共有すべく内容を網羅し整備されている。重度化等に対しての利用者、家族の意向を把握して事業所で可能なケアについて、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの気持ちに配慮し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応に十分配慮している。また、記録等の個人情報についての管理、保管の徹底も図られていて、写真などの利用についても利用目的や条件を明確にし同意書を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、体調に配慮しながら、菜園作りや食事の後片付け等を行っている。また、その日をどのように過ごしたいか、外出等希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で取れた野菜や近隣の農家から頂いた食材等を献立に取り入れ、利用者の力や食事作業の好みを把握し、準備や食事、片付けを職員と一緒にこなしている。食事摂取も利用者の力量に合わせて支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できる限り一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒まれる利用者には、言葉かけや対応の工夫により入浴支援している。職員と一緒に銭湯に出かけたり、隣接施設の特設浴場も利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちや力を活かす場面づくりを行い、充実感や達成感に配慮した支援を行っている。	○	知人を招いて居室でお持ち成しをする為の支援の充実や、関係機関と連携をして、サークル活動などに参加する計画があるので、利用者の生活歴や意向について家族と情報を交換しながら取り組まれることを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、外気に触れる重要性を理解し、利用者の安全確保を最重視しながら外出支援を行っている。今後は、個別外出支援はもとより、行事的な外出も更に検討する意向を示している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関に施錠しているが、日中は開放している。管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。安全確保の視点で、玄関にセンサーを設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間、夜間を想定して避難訓練を行っている。近隣に民家はなく、地域の人々の協力が即時に得られない立地条件のため、併設している同法人の施設間の協力体制を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食べる量や、水分量が一日を通じて確保できるよう毎日チェックし、栄養バランスを考えた献立を提供している。一人ひとりの状態や力、習慣に応じ、食事形態に配慮をした支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、写真、行事の飾りつけ等を利用者と共に行い、居間には昔懐かしい食器戸棚やテーブルなどの調度品が置かれ、他者との関係性に配慮をした空間作りを行なっている。生活感や季節感をふんだんに採り入れて、安心して居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした広さがあり、利用者の馴染みの家具や、仏壇等が持ち込まれ、壁には思い出の写真などが飾られ、ベッドではなく畳に布団を引いて休む等、利用者の希望に合わせて居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。